

1. 大山まちづくり総合計画とは

(1) 計画の目的

大山駅周辺地区（以下、「本地区」という。）は東武東上線大山駅を中心に、活気とにぎわいのある商店街が広がり、病院・文化会館などの公共公益施設が多数立地する利便性の高く、非常に魅力ある地区です。板橋区は、このような本地区を都市としてのイメージを高め、人々を引きつけ、誰もが「住みたい」「訪れたい」と感じる魅力と活力にあふれたまちとして板橋を再生するための「板橋区の顔」として考え、まちづくりを総合的に進めることが重要と考えています。

大山まちづくり総合計画は、まちづくりを総合的に進めるため、「将来のまちの姿」を設定し、その実現に向けて、今後取り組むべきまちづくりの内容を定め、地区全体のまちづくりを推進するための行政計画として策定するものです。

また、本地区には、単独でのまちづくりでは解決の難しい重要な課題が次のとおりあります。これらの課題についても、地域の皆様との協働により、総合的、かつ、一体的にまちづくりを推進し、効果的な解決を目指します。

- ・ 鉄道による市街地分断の解消
- ・ 都市計画道路補助26号線の整備と沿道のまちづくり
- ・ 駅周辺のまちづくり（駅前広場の整備など）

(2) 計画の対象地区

本地区は、大山町・大山東町の全域と、大山金井町・熊野町・氷川町・仲町・栄町の一部が対象です。（約81ha）



(3) 計画の位置づけ

本計画は、「板橋区基本構想」、「板橋区基本計画」、「板橋区都市計画マスタープラン（第二次）」などに基づくと共に、大山駅周辺地区まちづくり協議会による「大山駅周辺地区まちづくりマスタープラン」の提言を踏まえ、区として本地区のまちづくりに取り組んでいく基本的な考え方・方針・事業などを位置づける行政計画です。

なかでも、板橋区の悲願である東武東上線による市街地分断の解消については、平成 16 年 6 月に東京都が策定した「踏切対策基本方針」に基づき、鉄道立体化の検討と周辺まちづくりの方針を定め、鉄道立体化の早期実現を目指すために必要な取り組みを示します。

大山まちづくり総合計画と関連計画の対応図

